# 私が携わった情報システム開発プロジェクト

## 情報システム開発プロジェクトの概要

介護サービス提供事業者Ａ社が事業登録を行い、新たに事業を始めることになった。介護サービスのうち、訪問介護や訪問入浴のサービスを要介護者に提供する。情報システム開発会社Ｂ社は情報システム開発を依頼され、私が当プロジェクトのプロジェクトマネージャに任命された。

## 業務の開始日を変更できなかった背景と変更要求の内容

事業の開始日は既に決まっており、そのための人員の採用なども並行して進んでいた。そんな中、看護士の資格をもった人員が採用できたため、「訪問看護」のサービスも新たに提供サービスに加えたいとＡ社経営者から依頼された。設計作業が終わるころに依頼された新たなサービスの追加であり、対応範囲が増えることとなった。

# 変更要求に対応するための取り組み

このような場合、プロジェクトマネージャとしては、まず、業務の開始日に稼動させるシステムとそれ以降に段階的に稼動させるシステムの範囲を決定する必要がある。そのため以下のように検討した。

## 検討した内容

1. 介護サービス提供業務の流れは大きく介護サービスの計画作成、サービスの提供／実績登録、請求計算の流れになるが、実績登録および請求計算業務は事業継続のための根幹であり、なんとか業務開始日までに開発する必要がある。しかし介護サービス計画作成業務については手作業でも実施可能なため、今回のシステム開発の範囲から外し、半年後に対応することとした。これに伴い、介護サービス計画作成機能の開発に関する各タスクを中断し、開発計画を変更した。
2. 半年後のシステム開発では、半年間手作業で行った介護サービス計画データの移行（システムへの入力）について行う必要がある。

## 特に重要と考えた観点

1. 介護サービス計画作成業務は一定期間手作業となったが、この間も利用部門が円滑に業務を遂行できることが特に重要と考え、簡易的な計画作成支援ツールを提供した。
2. 介護サービス計画作成業務に関する問い合わせが増加することが予測できたため、運用部門の負担を軽減するために、事前にＦＡＱを作成し、研修等を行った。

## 検討した結果

1. 前述の施策により、利用部門が円滑に業務を遂行することができた。
2. 前述の施策により、運用部門に大きく負担をかけずに済んだ。

# 検討結果についての評価と今後の改善点

## 検討した内容結果に関する評価

業務・運用への影響を軽減できたため、期日までに部分稼動することができたため、おおむね成功したと考えている。

## 今後改善したい内容

部分稼動による開発、業務、運用への影響を検討するのに苦労した。検討した内容についてプロジェクト完了報告書にまとめたため、今回のプロジェクトで得られたノウハウを今後の開発に役立てたい。

以上